

# 食の簡便化ニーズに対応した、多品種・カラフルな、 ばれいしょの生産・加工・販売

株式会社 なな実(せたな町)



収穫を喜ぶ高松代表(左)と社員の方々

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 2008年に経営継承し、2010年に法人設立。法人化を契機に、水稻主体から収益性の高い畑作物主体の経営にシフト
- ◆ ばれいしょの生産は、早出しに加え秋収穫栽培の取組を開始したが、栽培方法の違いが分からず、軟腐病が大発生し、法人設立初年度に大きな挫折を味わう
- ◆ 生産面積の増加に伴い、販売方式を系統出荷から直接販売に変更。市場関係の知人の紹介もあり、東京の市場を獲得できたものの、道内向けは道内の主産地に勝てず、返品に至ることも
- ◆ 道内主産地と差別化を図るため、多品種・カラフルな、ばれいしょを中心とした6次産業化(加工品の製造・販売)を2020年にスタート

## 【組織等の概要】

- ◆ 名称: 株式会社 なな実
- ◆ 代表: 高松 利彰
- ◆ 所在地: せたな町北檜山区二俣107
- ◆ 経営面積: 50ha(水稻5ha、ばれいしょ25ha、大豆10ha、小豆8ha、デントコーン等)
- ◆ 加工販売品: コロッケ、いももち、フライドポテト、焼きおにぎり、レトルトカレー等
- ◆ 主な販売先: じゃがいもFACTORY、あぐりへい屋、道の駅なないろ・ななえ、きたキッチン等



一面に咲くばれいしょの花



青空の下での収穫の様子

## 【今後の展望】

- ◆ ばれいしょ作付を30haまで拡大し、大豆・小豆等の輪作作物の生産にも力を入れていきたい
- ◆ 社員の意見を取り入れ、新たなばれいしょ加工商品の開発やレストラン等の飲食事業者とのコラボにより知名度を高めたい
- ◆ 道外での更なる販路拡大

## 【取組の成果】

- ◆ ばれいしょの多品種栽培  
作付品種数: 2020年25品種、2022年51品種、  
2023年54品種  
出荷量: 2020年500t、2022年650t、2023年  
600t(見込)
- ◆ 加工品の販売  
・道内での販売に加え、近年は、関東のデパート、スーパーで行われる物産展等に出店  
・近年の食の簡便化志向にマッチした、カラフルな「ポテとい・ろ・かると」、「田舎のいももち」等の冷凍加工品が好評



様々な実製造の加工品